

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年3月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、3月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 令和4年3月定期報告

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁	非公開
東予	地域	1	たまねぎの病虫害の早期発見と防除を指導	1	
東予	地域	2	J A周桑の麦「ハルヒメボシ」・「さとのそら」の後期管理の徹底	1	
東予	地域	3	農業指導士が新規就農者就農初期 農業者に農業機械の利用方法を指導	2	
東予	地域	4	早期芋づる確保に向けて試験を実施	2	
東予	地域	5	コロナ禍での消費拡大に向けた売り方の検討	3	
東予	四中	6	やまのいも産地振興の方向性を確認！	4	
東予	四中	7	道具を作って安全な有害鳥獣捕獲を！	4	
東予	四中	8	夫婦で経営を考える！家族経営協定を締結	4	
東予	産地	9	東予花木の産地化に向けた取組み着々	5	
今治	地域	10	きゅうり新規栽培希望者向け説明会の開催	6	
今治	地域	11	鳥獣害対策指導者研修会を開催	6	
今治	しまなみ	12	夏季レモン栽培実証試験結果報告会の開催	7	
今治	しまなみ	13	しまなみGTが欧米豪向けファムツアーを受入れ	7	
今治	産地	14	6次産業化プランナーを招いてオリーブの販売戦略を検討	8	
今治	産地	15	オリーブの育苗およびせん定講習を実施	8	
今治	産地	16	地元大学と産地消活動での連携について協議	9	
中予	地域	17	営農計画の具体化を推進！「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム会」	10	
中予	地域	18	「伊予柑」を中心とした露地中晩柑の超省力化に向けて	10	
中予	地域	19	基盤整備後のかんきつ新植園地における土づくりの実証	11	
中予	地域	20	なす天敵利用技術の確立に向けて	11	
中予	地域	21	さといも「愛媛農試V2号伊予美人」の優良種芋大量生産に向けて	12	
中予	地域	22	若手普及指導員を講師に「農業版ジョブコーチ育成研修会」を開催	12	
中予	地域	23	「農福連携に関するアンケート」結果	13	
中予	地域	24	農福連携版「農作業依頼シート」が完成	14	
中予	伊予	26	集落営農組織に対し、さといものセル苗講習会を開催	15	
中予	伊予	27	小麦「シロガネコムギ」、順調な生育を確認	15	
中予	伊予	28	伊予地区青年農業者が農業大生と意見交換！！	16	
中予	伊予	29	七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議開催	16	
中予	久万	30	漬物向け野菜栽培マニュアル・漬物加工マニュアルが完成	17	
中予	久万	31	夏秋トマトにおける細霧冷房システムの効果を報告	17	
中予	久万	32	春の耕作開始に向け、農業機械安全講習を実施	18	
中予	久万	33	農業公園研修生に向け、農業の心構えなどをアドバイス	18	
中予	久万	34	ピーマンの自動かん漕水装置の導入支援	19	
中予	久万	35	令和4年産久万高原清流米の生産に向けて	19	
中予	久万	36	子供たちへ“稲”のディスプレイ配布で食農	20	
中予	久万	37	久万高原生活研究協議会が食文化普及講座を開催	21	
中予	久万	38	青年農業者が就農啓発イベントを開催	21	

中予	産地	39	パクチー中予地域生産者の連携にむけて合同会議を開催	22
中予	産地	40	「甘平」のせん定講習会を開催	22
中予	産地	41	地中への堆肥施用で「甘平」の裂果軽減を実証	23
中予	産地	42	「さくらひめ」鉢物の栽培技術向上に向け、連絡会議及び現地検討会を開催	23
中予	産地	43	お花で気分を晴れやかに 「さくらひめマルシェ」を支援	24
南予	地域	44	青年農業者が課題解決に向けた研修会を開催！	25
南予	地域	45	南予の若手普及職員らのオリジナル研修会「にゃんよアグリ塾」始動！	26
南予	地域	46	和菓子原料向けびわの摘果・袋かけを指導	26
南予	地域	47	アンケート結果から農業濁水防止は「代かき後も浅水管理が必要」	27
南予	鬼北	48	大型の農地マップを活用し、集落農業の問題点を協議！	28
南予	鬼北	49	農福連携で大規模くり園の新植を支援！	28
南予	鬼北	50	(株)あかまつ農園ゲストハウス完成！	29
南予	愛南	51	SNSを活用した情報発信について学ぶ	30
南予	愛南	52	県かんきつオリジナル品種について理解を深める	31
南予	産地	53	鬼北町・松野町でゆずのせん定講習会を開催	32
南予	産地	54	若手普及職員がFacebookで南予の農業の魅力を発信！	32
南予	産地	55	「南予マルシェ」次年度も継続開催へ！	33
八幡浜	地域	56	スマート農業技術の普及に向けた取組と課題について検討	34
八幡浜	地域	57	西宇和地域柑橘集落営農組織支援協議会で活動実績を報告	34
八幡浜	地域	58	清見の新しい果皮障害対策（ジベレリン処理）の実用化に向けて一歩前進	35
八幡浜	地域	59	新規就農者を対象としたかんきつせん定講習会の開催	35
八幡浜	地域	60	就農啓発PR動画「愛顔で就農～八西地域で柑橘栽培～」をお披露目！	36
八幡浜	大洲	61	新規就農者の定着と経営安定化に向け支援	36
八幡浜	大洲	62	イノシシ対策強化に向けて地域の若手リーダーに聞き取り調査を実施！	37
八幡浜	大洲	63	「内子アグリベンチャー21」が農山漁村で活躍する女性組織として全国表彰される	37
八幡浜	西予	64	青年農業者が1年間の活動成果を報告	38
八幡浜	西予	65	ゆず産地の維持・拡大を図るため、ゆずのせん定講習会を実施！	38
八幡浜	西予	66	女性農業者がアシストスーツの効果を体感！	39
八幡浜	西予	67	さといもの栽培面積拡大	39
八幡浜	西予	68	ケールの品質向上対策に向けてリアルタイム栄養診断を実施	40
八幡浜	産地	69	加工用青ねぎの夏季育苗試験の収量を調査	40
八幡浜	産地	70	令和4年産川田温州の生産をスタート	41
農産園芸	高度普及	71	コロナ禍での売れる商品プロジェクトで販売UP商品が開発される	42
農産園芸	高度普及	72	「甘平」の裂果要因の解明と対策技術の確立に向けて研究会を開催	43
農産園芸	高度普及	73	作物調査研究会でひめの凜金賞プロジェクトの結果を報告	44
農産園芸	高度普及	74	いちご高設栽培における高度な養液管理技術の分析結果を報告	45
農産園芸	高度普及	75	さといもの優良種芋安定生産技術の確立に向け栽培実証を開始	46
農産園芸	高度普及	76	革新的技術を実証するモデルほ場が完成、高度な栽培技術の確立を目指す	47

## 東予地方局 地域農業育成室

### ■たまねぎの病虫害の早期発見と防除を指導

- 地域農業育成室は3月9日、昨年産たまねぎでアザミウマ類等の病虫害が多発したことから、JAえひめ未来管内のたまねぎ（13人、21ha）ほ場において、今シーズン最初となる病虫害の発生状況調査を病虫害防除所及びJAと連携して実施。
- 定点ほ場8か所を調査した結果、昨年より発生は少なく、べと病とアザミウマ類が1ほ場、腐敗病による立枯症状が2ほ場で確認された。
- そこで、当室は早急に防除を行うようJAを通じて生産者に周知するとともに、管内生産者への防除指導の徹底を申し合わせた。
- 当調査は、収穫まで月1回程度のペースで行い、病虫害の早期発見と的確な防除に努める。



ほ場での発生状況調査

### ■JA周桑の麦「ハルヒメボシ」・「さとのそら」の後期管理の徹底

- 地域農業育成室は3月29日、JA周桑と連携し、はだか麦「ハルヒメボシ」及び小麦「さとのそら」の後期管理講習会を4つの営農センターで実施。
- 当講習会では、今年度から小麦栽培（45ha）が管内で始まり、出穂期から収穫期までの病虫害、雑草対策等の後期管理のポイントを指導した。特に、小麦は赤かび病に弱いため開花期以降に2回防除することを徹底した。
- 現在の生育状況は、2月中～下旬の気温が平年を下回ったため、出穂は昨年比1週間程度遅れているものの、生育は旺盛で平年以上の収量が期待できる。
- なお、同JAのはだか麦作付面積は、需給ギャップ解消のため、一部小麦への作付転換を図ったこともあり656ha（対前年比92%）となっている。



小麦の赤かび病対策指導を徹底

## ■農業指導士が就農初期段階の農業者に農業機械の利用方法を指導

- 地域農業育成室は3月3日、就農初期段階の農業者の早期経営自立に向け、農業指導士を講師に招き、農業機械を利用したほ場での現地研修会を開催、11人が熱心に受講した。
- 当研修会は、新規就農者を対象とした土壌肥料勉強会を12月から5回開催しており、その一環として、現場で即実践できる技術の習得を目指したもの。
- 農業指導士は、トラクターの作業前後のメンテナンス、水田での耕起、畝立て、マルチ張り等、ポイントを説明しながら実演し、参加者からのロータリーの回転数やさといものマルチ幅等の質問に体験を交えて答えた。
- 当室は、参加者からのマルチ張り後の管理機の利用方法や排水対策など、継続した指導の希望があるため、農業指導士と連携し、引き続き早期自立に向けた支援を行う。



トラクターのメンテナンスについて説明



マルチ張りを説明・実演する農業指導士

## ■早期芋づる確保に向けて試験を実施

- 地域農業育成室は3月上旬から、新居浜市大島の特産品である七福芋（通称：白いも）の芋づるの早期確保に向けた簡易な催芽（芽出し）試験を開始した。
- これは、昨年、芋づるの生長が遅く定植適期に間に合わず、面積拡大の妨げとなっていたため、実施したもの。
- 従来は、芽出し処理を行わず種芋の伏せこみを行うため、発芽が遅れていた。そこで、試験では発泡スチロールに籾殻とバーミキュライトを敷き詰め、ビニールで密封する簡易な催芽試験を行った。
- 3月24日現在、伏せ込みより早く芽が出ることが確認できたので、今後、導入に向けて生産者等へ周知する。



芽出ししたいもの状態

## ■コロナ禍での消費拡大に向けた売り方の検討

- 地域農業育成室は、「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト」を活用し、支援対象農家に対し販売方法や段ボールデザインの変更等について改善提案を行った。
- 今回の提案は、トマトを既存の段ボールで販売していたものを、他社との差別化に向け販売元がわかるようなデザインへ変更することに加え、加工品の販売量の拡大に向け野菜とのセット販売を行うというもの。
- また、消費者ニーズを把握し、内容量や商品構成の見直しに生かすため、Google フォームを利用した消費者アンケート調査も提案し実行した。
- その結果、消費者からは旬の食材を求める意見や多品目のセット販売を求める意見が複数あったので、今後の商品構成に生かし販売戦略に活用することとした。
- 今後、当室は、さらに売れる商品づくりに向け生産者を支援するとともに、これらの取組が他の生産者へも波及するよう活動を継続する。



アンケート依頼用紙



改良した段ボールデザイン

## 東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

### ■やまのいも産地振興の方向性を確認！

- 四国中央農業指導班は2月28日～3月2日、第2回やまじ丸生産振興協議会を書面開催し、今年度の活動実績及び次年度の活動について、情報共有及び意見照会を実施した。
- 意見照会では、課題である①栽培面積の拡大に向けた取組②生産技術の省力化・品質安定化の取組③知名度向上・販路拡大への取組について、多くの意見が寄せられた。
- 具体的には、「有利な販売環境を維持するには、『面積10ha、生産量100t』を目標としたい」「やまじ丸ファンを確保するために市内製紙業者へPRを検討したらどうか」「新規の夏メニュー（夏バテ防止）の提案をしたらどうか」等の前向きな意見が多かった。
- 当班では、やまのいもブランド「やまじ丸」の産地振興に向け、今回の意見をもとに、次年度早々に協議会を開催し、具体的な活動方策等を検討する。

### ■道具を作って安全な有害鳥獣捕獲を！

- 四国中央農業指導班は3月9日、土居町上野地区の農業者ら9人を対象に鳥獣害対策講習会を開催した。
- 講習会では、東予地方局地域農業育成室のえひめ地域鳥獣管理専門員から有害鳥獣の捕獲等に使用する器具の特性や構造、使用上の注意点等を解説。参加者は、くくりわなの作動部と電気止め刺し器を製作するとともに、捕獲鳥獣の習性や事故例等を学び、安全に捕獲するためのノウハウを身に付けた。
- 当班では、鳥獣害対策経験の浅い農業者らの技術力向上と集落ぐるみの取組を推進するため、活動グループの組織化に向け継続して支援する。



器具の特性等を説明



二人一組でくくりわなを作成

### ■夫婦で経営を考える！家族経営協定を締結

- 四国中央農業指導班は3月18日、四国中央市の農業者の家族経営協定締結を支援した。
- 同協定は、パートナーが主体的に経営参画するため、双方で話し合い、我が家のモットーや経営目標を設定し、役割分担や収益の配分、労働時間、休日等を明記しており、今回は文書持回り方式で協定書に調印した。
- 当班は、これまでに協定を締結している管内20経営体を支援するとともに、引き続き関係機関と連携し新たな家族経営協定の締結を推進する。

## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■東予花木の産地化に向けた取組着々

- 東予及び今治支局産地戦略推進室は、局予算事業「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」で花木3品目（ビブルナム・ティナス、ピットスポラム、メラレウカ）の生産振興に取り組み、今般、せん定・挿し木技術や鮮度保持試験等の3年間の成果をとりまとめた「花木栽培マニュアル」を作成した。
- 3月22日には本マニュアルを活用し、JA周桑のメラレウカせん定講習会において樹形作りのポイントを指導した。
- あわせて、産地の知名度向上と新たな需要の創出に繋げることを目的に、産地紹介や花木を使ったフラワーアレンジメントの動画制作を進めた結果、9月の今治編に続き3月には西条編及び四国中央編を県YouTube公式チャンネルで配信した。
- 本動画はQRコードを使って見ることができ、県外市場関係者へのPRにも活用することとしている。



PR動画のサムネイル

#### ※発信動画一覧

- ・【発見！東予の花】花木を使ったフラワーアレンジメント(今治編)
- ・【発見！東予の花】花木を使ったフラワーアレンジメント(西条編)
- ・【発見！東予の花】花木を使ったフラワーアレンジメント(四国中央編)

## 今治支局 地域農業育成室

### ■きゅうり新規栽培希望者向け説明会の開催

- 地域農業育成室は3月12日、今治産きゅうりの更なる面積拡大を目指してJAおちいまばりと連携し、新規栽培希望者向け説明会を開催し、30～40代の農業未経験者を含む7人が参加した。
- 当室からは、露地栽培の概要のほか、長期間安定して収穫する上で初心者が見落としやすいポイントについて重点的に説明を行った。また、防風対策では、支柱の補強や防風垣になるソルゴーの栽培方法等を指導した。
- 受講者から、「排水の悪い土地での注意点は何か」「農協の資材助成について教えてほしい」等多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。
- 受講者の内、半数近くは令和4年にきゅうり栽培に取り組む意向を示しており、当室はJAおちいまばりと連携して、新規栽培者が1年目から安定した収量が得られるよう継続的に指導する。



長期収穫のポイントを説明

### ■鳥獣害対策指導者研修会を開催

- 地域農業育成室は3月15日、今治市大西町のかんきつ園地で鳥獣害対策指導者研修会を開催し、JA営農指導員や関係者9人が参加した。
- 参加者は、当室職員を含む3人のえひめ地域鳥獣管理専門員から、センサーカメラを活用した動画をもとに被害状況や加害動物を正しく把握し、適切な対策を農家と相談しながら講じていくことが大切であることを学んだ。
- また、今まで被害の無かった作物（さといも等）が食害されたり、今まで出沒していなかった地域にサルの群れが出沒したりと被害状況が拡大しており、営農指導員は、いち早く現場の変化に気づくことができることから、同専門員から情報共有できる体制づくりについて提案を行った。
- その後、参加者らは、ワイヤーメッシュ柵、電気柵、複合柵の設置方法について、設置時のポイント等を同専門員から説明を受け、設置を実習した。
- 当室は、えひめ地域鳥獣管理専門員や営農指導員と連携して、鳥獣害対策を推進する。



ワイヤーメッシュ柵の設置方法を指導



電気柵設置時の注意点を説明

## 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■夏季レモン栽培実証試験結果報告会の開催

- しまなみ農業指導班は3月22日、しまなみ農業指導班岩城駐在所において夏季レモン栽培の現地実証結果報告会を開催した。
- 局予算事業「しまなみ産夏季レモン栽培体系確立事業」で設置している現地実証ほでの調査成績を生産者に披露し、夏季レモンの栽培を促す狙いとして開催したもので、生産者7人の参加があった。
- 当日、参加者は当班から実証結果の説明を受け、岩城駐在所内の実証ハウスを視察し、夏季レモン栽培技術の効果など栽培技術の一端を学んだ。
- 実証農家からは、労力配分が可能な夏季レモン栽培に取り組んでいきたいとの意見も聞かれ、今後の栽培推進に向けて期待が持てる発言があった。
- 当班は、今後も栽培実証試験を継続し、ハウスレモンの栽培推進と併せ、夏季レモン栽培生産技術確立と普及を目指す。



実証ハウスでの栽培技術の解説

### ■しまなみG Tが欧米豪向けファムツアーを受入れ

- しまなみ農業指導班は3月17日、アフターコロナにおけるインバウンド誘客強化への基盤づくりのため、県観光国際課等と連携し、ファムツアーの受入支援を行った。
- 今回のファムツアーは、欧米豪をターゲットとしたコンテンツの開発等を目的としたもので、当班からは地域資源を活用した「土器で塩づくり（伯方島）」体験を提供した。
- 体験に招へいされた専門家5人（うち外国人3人）及び関係者2人からは、「自分で作った塩を採れたての野菜や海藻に付けて食べるなど、とても贅沢ですばらしい体験」「ロケーションも最高」などと絶賛する声をいただいた。また、体験料金2,000円/人については、安すぎるとの意見があった。
- 今後、当班では体験指導者やしまなみグリーン・ツーリズム推進協議会に対し、体験料金の見直しやSDGsの取組を導入するよう支援する。



特製の土器で海水を煮詰める



できたての塩で旬の野菜や海藻を試食

ファムツアー：Familiarization Tripの略。観光地の誘致促進のため、海外の旅行会社やメディア関係者を招待し、地域の魅力を実際に見て体験してもらうツアーのこと

## 今治支局 産地戦略推進室

### ■6次産業化プランナーを招いてオリーブの販売戦略を検討

- 産地戦略推進室は3月4日、今治市吉海支所にて、(公財)えひめ産業振興財団のプランナー関原雅人氏を招き、オリーブの生産団体「ポパイズクラブ」の今後の販売戦略や経営改善について協議した。
- 5回目となる今回の協議には、会員6人が出席し、原価計算を基にしたオイル価格の改定や改定後の販売方法の工夫等を検討した。プランナーからは、事業の継続や継承を見据えた値上げや価格を維持する方法が提案された。
- 当室からは、関西の飲食店で実施した品質評価の結果やセット販売購入者からの意見や要望などを紹介し、「オイルを品種や搾油日で差別化し、それぞれのターゲットを明確にして販売すべき」と提案した。
- 6次産業化プランナーによるコンサルティングは今回が最終回となるが、今後も連携を継続し、販売方針を決定したい。



プランナーとの協議

### ■オリーブの育苗およびせん定講習を実施

- 産地戦略推進室は、今治市吉海町の「NPO 法人アクションアイランド」の会員5人に対して、3月1日に育苗講習を、14日にせん定講習を行った。
- 育苗講習では、10月7日に挿し木した約1,000本の挿し穂の発根状態を確認し、発根が確認できた約200本を直径9cmサイズのポットに鉢上げした後、かん水や施肥など当面の管理を指導した。残りの挿し穂も発根状況を確認しながら、順次鉢上げしていく予定である。
- せん定講習では、定植後3年目となる若木に、主幹の切り戻しや、樹形を整える間引きせん定方法について実習を交え指導した。
- オリーブで吉海町の活性化を目指す当NPO法人は、育成した苗を島内に配布する計画であり、挿し木の発根率が20%以上(前年は数%)と高くなったことに手ごたえを感じていた。



オリーブの挿し木鉢上げ



オリーブせん定講習

## ■地元大学と地産地消活動での連携について協議

- 産地戦略推進室と地域農業育成室は3月10日、今治明德短期大学教員5人および今治市担当者1人とともに、来年度計画している地産地消活動での連携について協議した。
- 同短大が予定しているFC今治とコラボした料理教室での地元食材利用や新しいレシピ開発の方向性、オリーブの収穫体験への参加等について話し合い、同大学が事業計画を検討する中で、相互に連携できるところを見つけていく運びとなった。
- 連携する地元食材として、夏季レモンや甘長とうがらし、オリーブ、小麦、醸造用ぶどう（ワインに合う料理等の開発）を提案しており、学生によるレシピ開発や料理教室で地元製品のイメージアップを図っていく。



地産地消活動について協議

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■営農計画の具体化を推進！「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム会」

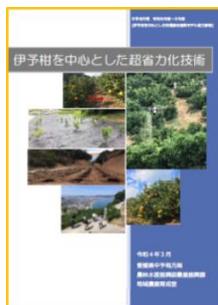
- 地域農業育成室は3月10日、管内各地区の樹園地整備計画を推進するため、県、市、JAの関係者で構成するワーキングチーム会を開催した（24人出席）。
- 下難波地区では、耕作予定者による土づくりが進められており、一部の工区で3月にかんきつ苗木を定植して営農が開始された。今後は各工区の農業用施設等の利用計画をとりまとめ、地区全体の営農施設整備計画策定を進めていく。
- 工事に着手した浅海原地区では、耕作予定者がかんきつ品種の見直しを要望しているため、品種特性等を考慮しながら地区全体の品種導入計画策定に向けた検討を進める。
- 当チーム会は次年度以降も継続し、当室は栽培技術や営農施設整備等についてチーム員等と連携して生産現場のニーズに対応した支援策の実現を進める。



ワーキングチーム会

### ■「伊予柑」を中心とした露地中晩柑の超省力化に向けて

- 地域農業育成室は、「伊予柑」を中心とした露地中晩柑栽培の超省力化に向けた技術資料を作成した。これは、令和元年度から3年間取り組んだ「『伊予柑』を中心とした柑橘（かんきつ）産地復興モデル確立事業」の現地実証調査の結果をとりまとめたもの。
- 作成に先立ち、3月10日に開催した「第3回『伊予柑』の超省力化技術による中予地域の儲かる柑橘（かんきつ）経営検討会」で、今年度後半の実証結果のほか、削減できた年間作業時間から試算した経営拡大モデルを関係機関と検証した。また、ドローン防除については、生産者の高齢化や夏の異常降雨を背景に省力効果が注目され、農薬登録拡大や防除効果の研究蓄積などに期待する等の声があった。
- 当室は、関係機関と連携して技術資料を活用した普及指導を進め、「かんきつ王国えひめ」を支える「伊予柑」など露地中晩柑の生産量維持を目指す。



超省力化技術の現地調査結果や導入のねらい等を提示



関係機関と事業実施結果を共有し、引き続き、産地振興に向けた連携を確認

## ■基盤整備後のかんきつ新植園地における土づくりの実証

- 地域農業育成室は3月25日、松山市下難波地区の基盤整備園地で腐植酸質資材を施用した。
- 当園地では、昨年からの堆肥投入や緑肥栽培による土づくりを続けており、今回は土壌分析の結果を基に、保肥力の向上を図るため行った。
- 今後は苗木の生育状況を継続的に観察し、本事例が他の生産者にとって参考となるよう、調査データの収集を行う。



土壌改良資材を全面施用

## ■なす天敵利用技術の確立に向けて

- 地域農業育成室は3月16日、県・市町・JAの関係者14人出席のもと、「第2回なす天敵利用技術検討会」を開催した。
- 同会では、天敵利用実証結果について報告を行い、防除回数は施設栽培33%削減、露地栽培20%削減（ともに慣行比）となり、果実品質は同等以上であった。
- また、天敵温存ハウスを設置したことで、土着天敵の供給が可能となった。
- なすの重要害虫であるアザミウマ類の防除は、農薬に対する抵抗性が発達しており、対策に苦慮していることから、当室では天敵利用による防除を推進していく。



なすの天敵利用について検討



土着天敵タバコカスミカメの観察

## ■さといも「愛媛農試V2号」の優良種芋大量生産に向けて

- 地域農業育成室は3月25日、JAえひめ中央と連携し、生産者ほ場で、さといものセル苗栽培での収量調査を実施した。
- JAえひめ中央東部営農支援センター管内では、昨年からさといも「愛媛農試V2号」の産地化に取り組んでおり、安定生産技術普及のためには、優良種苗の確保が重要となっている。
- セル苗は、優良な種芋を短期間で大量増殖できるため、当室は、セル苗から収穫した優良種芋を増やし、品質向上と収量増による産地拡大を図る。



生育良好なさといも



芋の分割作業

## ■若手普及指導員を講師に「農業版ジョブコーチ育成研修会」を開催

- 地域農業育成室は3月7日、農業版ジョブコーチ育成研修会を開催し、就労継続支援施設関係者、市町職員等計21人が参加した。
- 当日は、農業者の定例会等で「農福連携」の啓発活動を行っている若手普及職員4人が、それぞれ「かんきつの害虫について」「土作りと土壌肥料について」「有機農業について」「感染症対策について」など、専門分野等を生かした講習を行った。
- 参加者からは、「普段農業について学ぶ機会がないので勉強になった」「今後も色々な内容の講座を受けたい」との声が聞けた。
- また、今年度行った「農作業体験マッチング会」の様子動画や、管内の全福祉事業所を対象に実施した「農福連携に対するアンケート」の結果や、今後の県の取組について報告も行った。
- 当室では、今後も関係機関及び就労継続支援施設と連携し、「農福連携」のより一層の理解促進を図っていく。



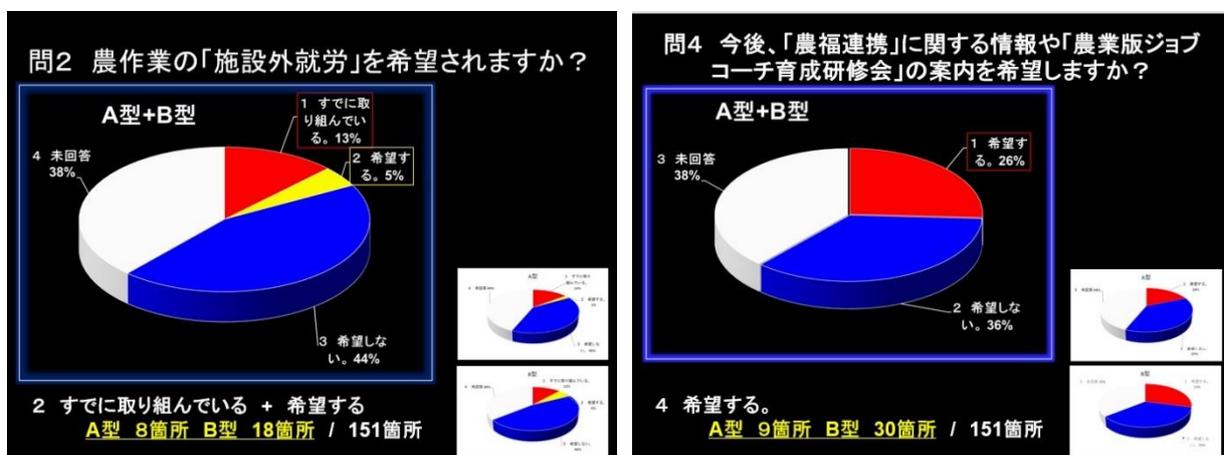
若手普及指導員の4人の講習



各専門分野について詳しく説明

## ■「農福連携に関するアンケート」結果

- 地域農業育成室は、管内の全就労継続支援施設 151 箇所（A型 48 箇所、B型 103 箇所）を対象に実施したアンケートの結果を取りまとめた。
- アンケートは、4つの設問と農福連携や県への要望等の項目を設定し、農業活動への取組に関する設問に対しては、「すでに取り組んでいる」が全体の 23%（34 箇所）、農作業の施設外就労に関する設問に対しては、「すでに取り組んでいる」「希望する」の回答を合わせ 18%（26 箇所）であった。
- また、今後農福連携に関する情報や農業版ジョブコーチ育成研修会の案内に関する設問に対しては、26%（58 箇所）から「希望する」との回答があった。
- 今回のアンケート結果より、障がいの程度や体力的な問題で農作業や施設外就労が困難な施設や、過去に取り組んでみたが無理であった事業所が確認でき、また、農業の定期的な指導を求める声や、自社で生産している農産物の販路を求める声が多いことなども把握できた。
- 当室では、今後アンケート結果を生かし、効率的に農作業受委託を結びつけることにより、労働力確保と障がい者の就労機会創出につなげる活動を行っていく。



アンケート結果は農業版ジョブコーチ育成研修会の中で報告

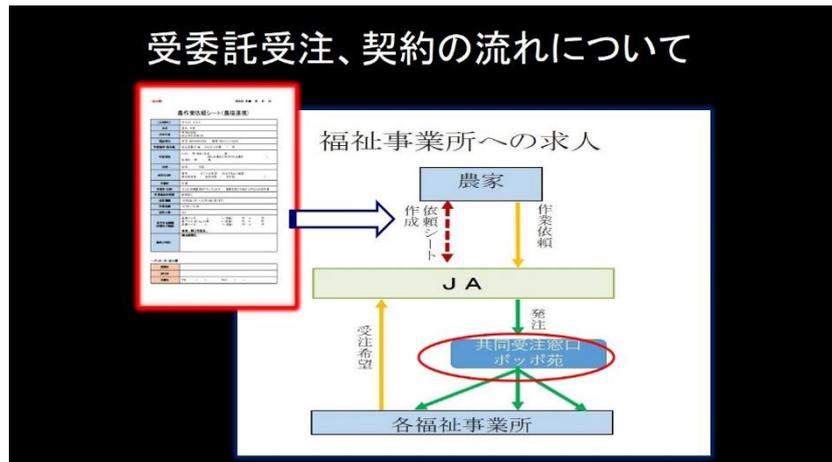
## ■農福連携版「農作業依頼シート」が完成

- 地域農業育成室は、農業者と就労継続支援施設との作業受委託がスムーズに行われるよう、JAを窓口とした「農福連携農作業受委託システム」作りを行っており、この度「農作業依頼シート（農福連携）」を完成させた。
- 作成にあたっては、効率よく契約できるよう、作業内容な作業環境などが分かるよう具体的に記載できるよう配慮した。
- 当室は今後、JAや農福連携の実践を検討している部会員等へ説明するとともに、就労継続支援施設には、中予地区の共同受注窓口「ポッポ苑」への登録を促し、JAの自主運営による作業受委託が行われるよう推進していく。

(記入例) 申込日: 令和 年 月 日

農作業依頼シート(農福連携)	
【ふりがな】	のちふく ちらう
氏名	農福 太郎
所在地	〒752-8522 和歌山県和歌山22
電話番号	自宅: 093-939-8782 携帯: 090-1111-2222
作業場所・勤務地	和歌山県和歌山14 かんさつ工場
作業環境	トビレ 有 和式・洋式 〇 農機具の貸出に利用できる場所 休憩所 有 〇 農
必要なもの	服装: ビニール手袋 汚れてもいい服装 農中症対策 防塵対策 その他:
作物名	稲
作業名・目的	玄米の脱穀(兼「ササガ」の収穫)を機から守るための作業
作業場所の有無	無
作業期間	12月5日(月)～12月10日(金)まで
作業時間	10:00～12:00
作業人数	4人
作業ベース:	1日(単価) 円 = 円
希望受注施設(希望受注施設)	1日(単価) 円 = 円
必要・農具の数量	1日(単価) 円 = 円
備考(その他)	農具の貸出
コーディネーター記入欄	
担当者	
担当者	
連絡先 TEL: - - - FAX: - - -	

農作業依頼シート（農福連携）



JAを窓口とした受委託受注、契約の流れ

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■集落営農組織に対し、さといものセル苗講習会を開催

- 伊予農業指導班では3月17日、18日、さといものセル苗講習会を開催し、集落営農組織を中心に15人が参加した。
- 近年、管内では、さといも「愛媛農試V2号」の栽培面積が急増しているなか、種芋の高騰や乾腐・軟腐病、疫病等による品質・収量低下がみられるほ場が散見されており、解決策のひとつとして今回、紹介した。
- 講習会では、セル苗による増殖のメリットや管理方法等を学び、実際に親芋の伏せ込み作業（湿潤状態にしたバーミキュライトに親芋を投入し、副芽の生育を促進させること）を行った。
- セル苗育苗は、来年に10倍、再来年に200倍の種芋が生産でき（1つのセル苗から来年10個の種芋ができ、その種芋が再来年に20個の種芋を作るので、 $10 \times 20 = 200$ 倍）、より安定した種芋を大量に自給できる。
- 良質な種芋を育成することで、さといもの品質・収量向上に繋がることから、生産者は高い興味を示し、意欲的に技術を学んだ。
- 今年度、さといもの栽培面積は集落営農組織だけで2haを超え、水田を利活用した高収益作物として、今後も拡大が予想されることから、当班では栽培管理技術の向上と併せて、高品質な種芋の安定供給を図っていく。



普及指導員による講習会



親芋の伏せ込み作業

### ■小麦「シロガネコムギ」、順調な生育を確認

- 伊予農業指導班、JA等で構成する伊予農業技術者連絡協議会は3月17日、新規に導入した「シロガネコムギ」の生育特性等を把握・共有するため、伊予市と松前町の栽培15ほ場の生育状況を巡回し確認した。
- 播種期が11月上旬の早播き、11月中下旬の適期播き、12月下旬の晩播きでの生育状況、一発肥料の種類別の生育状況等について、生育調査データと照らし合わせながら現地で生育を確認した。
- 現地では参加者がそれぞれ幼穂の長さや草丈を測るなど熱心に観察した。
- 今後は出穂後の状況も確認し、収量調査等行い、次年度の栽培改善に役立てる。



幼穂を確認しながら情報交換する会員

### ■伊予地区青年農業者が農業大学校生と意見交換！！

- 伊予農業指導班は3月10日、農業大学校生6人を対象に就農啓発交流会を開催した。
- 当日は、青年農業者6人が自ら経営事例を紹介し、親元就農・独立自営などの就農状況別グループに分かれて活発な意見交換を行った。
- 参加した農大生からは、「実家には露地かんきつしかないが、話を聞く中で施設柑橘を取り入れたい」「自分の考えていた進路が曖昧だったことが分かった。具体的に考えたい」などの意見があがった。また、青年農業者からは、「砥部町が農大生の就農地の候補に挙がっていない。知られていないことが分かったので、継続して交流したい」などの前向きな意見が聞かれた。
- 今後も、青年農業者と農大生の交流会などを支援し、積極的に就農啓発を行う。



事例紹介する青年農業者と農業大学校生

### ■七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議開催

- 伊予農業指導班は3月29日、七折地区集会所で局予算事業「七折小梅産地再興支援事業」の一環で「七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議」を開催した。
- 当会では、七折小梅の生産安定に向けた技術実証などの取組について結果報告するとともに、関係機関との情報交換や今後の活動について情報共有を図った。
- 実証調査活動では、今年、不完全花の発生割合が高くなっており、収量にマイナス要素となっている現状を報告した。
- また、優良系統の調査では、不完全花の発生割合が少なく優れた系統であることが解ったため、母樹園を設置して今後の調査に活用することとした。
- 今後も、実証調査を継続し、安定生産につなげる技術の検証と確立を進め、七折小梅産地の再興と地域振興活動を支援する。



プロジェクトチーム会議で報告

## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■漬物向け野菜栽培マニュアル・漬物加工マニュアルが完成

- 久万高原農業指導班は3月に、漬物向け野菜栽培マニュアルおよび漬物加工マニュアルを作成した。
- これは、局予算事業「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」における、野菜栽培実証試験の結果や、地域の伝統漬物レシピの収集と改良、新商品開発講習会の成果等の3年間の活動をまとめたもの。
- 当班は、野菜栽培講習会や加工講習会において参加者に配布し、久万高原町の漬物向け野菜及び漬物加工品の生産・販売振興のために活用していく。



完成したマニュアルと作成した普及指導員

### ■夏秋トマトにおける細霧冷房システムの効果を報告

- 久万高原農業指導班技術普及グループは3月3日、④久万高原トマト部会の栽培講習会において、就農間もないトマト栽培者10人を対象に、細霧冷房システムの2年間の実証結果をもとに次の2点を報告した。
  - ①ハウス内の温度を下げることにより夏場の草勢低下を抑えることで、収量の増加と裂果防止につながり、可販量は2割程度増加すること。
  - ②細霧はハウス内の急激な乾燥を防ぐことから、トマトにとって健全な生長を促すこと。
- 参加者からは、草姿の違いや湿度の上昇による病害の発生状況など具体的な質問が出て活発な講習会となった。
- 今年度、管内では県及び町の事業を活用し、新たに4農家が細霧冷房システムを導入している。今後も導入が見込まれており、当班は、引き続き関係機関と連携して技術確立に向けた実証等を行っていく。



当班より細霧冷房の効果を説明

## ■春の耕作開始に向け、農業機械安全講習を実施

- 久万高原農業指導班は3月8日、久万農業公園アグリピアにおいて研修生6人を対象に農業機械安全講習を実施した。
- 当日は、当班職員より農作業死亡事故の発生状況や各種機械ごとの操作上の注意点、農作業事故が起こった場合の具体的な対応、日常点検や整備方法について詳しく説明。
- また、草刈機のオイルの点検方法や刈刃の装着方法などを実演したのち、ほ場にてトラクターの基本操作を実習した。
- 研修生からは、「機械操作を誤ると事故につながるので作業中は気をつけたい」「日常点検で確認しておかないといけない箇所がわかってよかった」などの声が聞かれた。
- 久万高原町では3月末から本格的に農作業が始まることから、当班では新規就農者らに農業機械の安全使用について引き続き周知していく。



草刈機の扱い方を指導する普及指導員



トラクターの点検箇所を説明する普及指導員

## ■農業公園研修生に向け、農業の心構えなどをアドバイス

- 久万高原農業指導班は3月25日、4月からトマト栽培を学ぶ研修生ら6人を対象に研修会を開催した。同会は、初めて農業に取り組む研修生らに対し、農業大学の講師を招いて農作業の心構えや農業にまつわることわざから教訓などを学んでもらおうと企画したもの。
- 講師からは、「苗半作というが、育苗作業を物事の始まりととらえれば、何事も最初が肝心ということ」「日々の農作業は繰り返しの作業が多いが、きちんと記録をつけておけばそれを元に次の計画が立てられるのでぜひ実践して欲しい」などの助言があり、研修生らは熱心に聞き入っていた。
- 久万高原トマト部会員79人のうち、久万農業公園の研修卒業生が25人と3割を占めており、当班でも引続き新規就農者の確保・育成に向けて支援を行う。



講師の話を熱心に聞く研修生ら

## ■ピーマンの自動かん水装置の導入支援

- 久万高原農業指導班は3月3日、久万高原ピーマン部会新規栽培者等を対象に、かん水作業省力化技術講習会を実施した。
- かん水作業の省力化技術である自動かん水装置の導入により、かん水作業時間の大幅な削減（手かん水に比べ最大75%）や収量・品質向上につながることから、管内では既に16戸の農家が導入している。
- 参加者は、当装置導入による収量・品質の向上やかん水作業の省力効果を理解し、導入を検討することとした。
- 当班は、今後もピーマン栽培の省力化と生産性向上に向け、自動かん水装置の導入推進を支援していく。



かん水作業の省力化技術を説明する普及指導員

## ■令和4年産久万高原清流米の生産に向けて

- 久万高原農業指導班は3月23日、JA松山市久万支所で開催された久万高原清流米実績検討会において、トビイロウンカの発生の特徴と今後の対策等について提言を行った。
- 9月中旬までに水稻の収穫を終える久万高原町内では、これまでトビイロウンカによる水稻への被害(坪枯れ)は皆無であり、令和2年度に被害を初めて見た生産者が大半であったことからJAの要請に基づき説明したもの。
- 各生産者への周知は4月以降、支部ごとの栽培講習会で実施予定。



トビイロウンカ対策を説明する普及指導員

### 【参考 令和3年産久万高原清流米実績】

生産者数 465名 (前年比93%)  
作付面積 281ha (前年比96%)  
出荷数量 22,365袋(前年比94.2%)  
1等米比率 94.8% (令和2年産:92.7%)

## ■子供たちへ“稲”のディスプレイ配布で食農

- 久万高原農業指導班は3月16日、久万高原生活研究協議会が取り組む「えひめ食農教育推進事業」支援の一環として、稲の現物を使用したディスプレイの作成をサポートした。
- このディスプレイは、食農教育に取り組む幼稚園との意見交換を経て実現したもので、当班が同協議会に提案した結果、会員が制作・配布することとなったもの。当日会員らは発泡スチロールの組立てや籾、玄米、ぬか、白米などの材料をはめ込む等の作業を行った。
- 出来上がったディスプレイは3月28日、町教育委員会を通じて町内の全小学校、幼稚園、保育所18か所に配布した。



ディスプレイ作成中の会員



完成したディスプレイ「ご飯が出来るまで」

## ■久万高原生活研究協議会が食文化普及講座を開催

- 久万高原農業指導班は3月19日、久万高原中央公民館露峰分館で開催された食文化普及講座を支援した。
- 当日は、児童6人と保護者3人、生活研究協議会員ら7人が参加し、地元食材を使った「たかきびのだんご汁」「たき込みご飯」「ポテトサラダ」「肉じゃがコロッケ」「どら焼き風スイーツ」を調理した。
- 試食の際、担当した会員らが料理の特徴を解説、児童からは「たかきび粉の色がだんごにするとなぜ変わるか」などの質問が出た。
- 今回の試みを通して、公民館活動等を通じた食文化普及講座の開催も検討することになった。



会員の手ほどきを受け調理する児童



来上がった料理をみんなで試食

## ■青年農業者が就農啓発イベントを開催

- 久万高原農業指導班が活動を支援している久万高原町青年農業者連絡協議会（会長：森優樹、33人）は3月26日、「道の駅 天空の郷さんさん」において就農啓発イベントを実施した。
- 当イベントは、秋に実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響でイベント開催ができなかったため、春の観光シーズンに合わせて実施したもの。
- おそろいの「天空ファーマーズ」の愛称入りポロシャツを着用した会員らは、自分達の栽培したトマトが材料のトマトジュースと、農作業風景や久万高原の景色をまとめたフォトブックを来場者に配布し活動をPRした。
- 「久万高原にも若い農家がたくさんいるのに驚いた」「これからも頑張っておいしいトマトを作って欲しい」などの励ましの声が聞かれた。
- 当協議会は新規就農者を久万高原に呼び込み、産地や地域を活性化させようと様々な活動を行っており、当班も支援を続けていく。



トマトジュースとフォトブックを配る会員ら

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■ パクチー中予地域生産者の連携にむけて合同会議を開催

○産地戦略推進室は3月17日、中予地域全域でパクチーの周年安定生産技術の確立に向けた取組を検討するため「中予地域パクチーの周年安定生産に向けた合同会議」を開催し、管内生産者、JAえひめ中央本所・各支所担当者ら15人が参加。



周年安定生産に向け検討する参加者

○会議では、JA園芸販売課が令和3年度の販売実績や市場状況を報告し、当室担当者からは、栽培面積は拡大傾向だが、生産量は不安定な状況であることなど、周年安定生産に向けた課題や改善点、令和元～3年度の現地実証ほ成績について説明した。

○生産者からは、「今年は夏季に腐敗等で破棄することもあった。小さなものでも早期出荷できるよう出荷規格を見直してほしい」と規格変更への要望があり、JAで検討することとなった。

○生産者の栽培意欲は高く、JAも生産者の掘り起こしなど積極的であり、当室では、令和4年度以降、中予地域全域での周年安定生産体制の構築を重点課題として、中予地域のパクチー産地づくりに取り組む。

### ■ 「甘平」のせん定講習会を開催

○産地戦略推進室は2月28日、JAえひめ中央と連携し、「甘平」の連年安定生産を目的に、令和3年産の着果量が多かったことによる隔年結果を考慮したせん定方法のほか、「大枝別交互結実法」や土壌改良とかん水管理による裂果軽減技術などの成果を説明する講習会を2地区で開催し、生産者28人が出席した。



現地でせん定方法を実演

○また、新型コロナウイルスの影響で講習会を開催できなかった地区については、JAを通じて、生産者に今年度の現地実証の成果資料を配布し、情報共有を図った。

○裂果軽減技術への生産者の関心は高いものの、一方では「かん水設備と水源が無いので、かん水管理が現実的ではない」といった意見もあり、生産現場の実情に応じた技術の確立が求められる。

○同室では、引き続き、園地条件に対応した技術の確立に取り組む。

## ■地中への堆肥施用で「甘平」の裂果軽減を実証

- 産地戦略推進室は3月10日、裂果対策のひとつとして土壌保水力の向上を図るため、JA及び生産者と連携し、管内の「甘平」1園地において、オーガを活用した地中への堆肥投入を実施した。この処理は2年目となる取組で、令和2年度末に真砂土で保水力の低い園地で実証ほを設置したところ、令和3年産の裂果率が減少したことから、土壌の保水力が低い園地で有効な裂果対策技術として期待される。
- 今回は、昨年度に実証ほを設置した生産者から「かん水量を増やすには限界があったが、その他の方法でも裂果が減らせるのなら引き続き取り組みたい」との声があり実施したもので、更なる裂果軽減対策として、オーガを用いて穴をあける際に、なるべく根を傷つけないようにして堆肥を投入した。
- 園地条件によっては、裂果軽減に必要な量のかん水が実施できない場合もあることから、当室では引き続き、かん水以外の裂果軽減技術についても実証を行い、生産現場の多様性に対応できる安定生産技術の確立に取り組む。



オーガを活用して堆肥の地中施用



根を傷つける量を最小限にして穴を空けられた

## ■「さくらひめ」鉢物の栽培技術向上に向け、連絡会議及び現地検討会を開催

- 産地戦略推進室は3月24日、「さくらひめ」鉢物の生産技術の向上を図るため、令和3年度の実績や令和4年度取組について情報共有する連絡会議及び現地検討会を開催し、生産者等16人が参加。
- 連絡会議では、当室から令和3年度の市場・消費者ニーズ調査や栽培技術実証の結果のほか、令和4年度に新たに取り組むキャンペーンの内容や実証ほの設置計画等について報告し、花き研究指導室からは、葉色改善のため生育期間を通じた施肥の重要性について説明した。
- 現地検討会では、需要期である母の日前出荷を目指した春出し加温栽培を実施している生産者のハウスにおいて、活発な生産技術の情報交換が行われ、参加した新規生産者からは「水やりのタイミングや温度管理について非常に参考になった」等の声が聞かれた。
- 当室では、引き続き、さくらひめ鉢物の認知度向上・販路拡大に取り組む。



ハウスで情報交換を行う参加者

## ■お花で気分を晴れやかに 「さくらひめマルシェ」を支援

○産地戦略推進室は、「さくらひめ」の知名度向上と販売促進に取り組んでおり、県営業本部、東温市商工会女性部及び鉢物栽培農家と連携して、3月19日、20日に松前町の園芸店で開催された「さくらひめマルシェ」を企画段階から支援した。

○当日は、同店が鉢物を、同女性部が「さくらひめ」の切り花と花かごを販売。また、同店が実施した抽選会では「とうおんしあわせ便」の花束及び花かごが特賞として用意され、イベントを盛り上げた。

○さくらひめ鉢物の購入者からは、「鉢物のさくらひめもあるんですね」「とてもかわいい花ですね。長く育ててみたいと思います」との声が聞かれた。

○同店では4月29日、30日にもマルシェを開催予定で、当室は引き続き、生産者、関係機関と連携してマルシェに協力し、「さくらひめ」の認知度向上及び販路拡大に繋げる。



「さくらひめ」鉢物販売

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■青年農業者が課題解決に向けた研修会を開催！

- 地域農業育成室は、自立した農業者を育成することを目的に宇和島市青年農業者連絡協議会の活動をサポートしており、青年農業者が抱える課題解決に向け、次のとおり研修会の開催を支援した。
- 3月3日は鳥獣害対策として、リモートで岡山県の(株)野生鳥獣対策連携センターの阿部氏から、シカ、イノシシの捕獲方法について、箱わな、くくりわなを活用した安全で効率的な捕獲方法を受講。研修を踏まえ、会員の園地にセンサーカメラを設置し、日々、会員同士が確認しながら捕獲活動を実際に学ぶこととした。
- 3月24日はかんきつ収穫・運搬時の負担軽減に向け、アシストスーツ実証会を開催。2月に実施した農作業安全に係るアンケート調査で、会員の7割で収穫・運搬時の腰痛が確認されたため、アシストスーツ2着を購入し、その効果を確認した。当日は会員32人が実際に着用し、20kgの肥料袋を運搬したところ「腰を曲げた際に楽に直立姿勢に戻ることができる」「実際にみかんの運搬作業で使ってみたい」などの声があがっていた。
- 当室では、地域農業の担い手となる青年農業者の育成のため、引き続き組織活動を支援する。



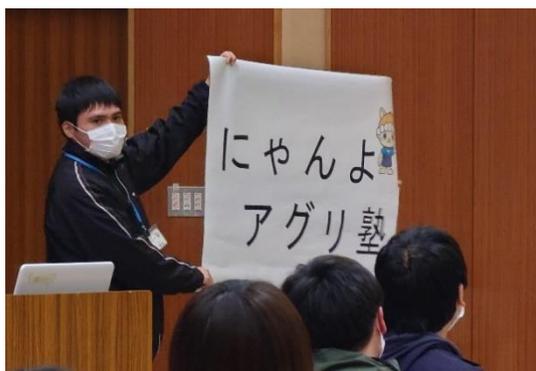
鳥獣害対策講習会を開催



アシストスーツによる負担軽減効果を実証

## ■南予の若手普及職員らのオリジナル研修会「にゃんよアグリ塾」始動！

- 南予地方局及び八幡浜支局の地域農業育成室、産地戦略推進室は3月7日、南予地方局で、若手普及職員等育成プロジェクト研修会（第2回）を開催し、管内の若手普及職員や研究員24人が参加した。
- 当日は、研修会の愛称を「にゃんよアグリ塾」と決定し、来年度以降も若手職員が自主的に企画・運営していくことを申し合わせたうえで、同局の先輩職員からいちごの育種手法や県オリジナル品種の育成経過について説明を受けた後、ジューサーを使って果実から種を取り出し、播種する一連の作業手順を体験。
- また、各自が作成した「南予の魅力と地域農業の活性化」のレポートを基に意見交換し、担い手の育成や儲かる農業の実現などについて議論を深めた。



若手職員研修会の愛称は「にゃんよアグリ塾」！



いちごの採種体験

## ■和菓子原料向けびわの摘果・袋かけを指導

- 地域農業育成室は3月8日、JAえひめ南と連携して、宇和島市西三浦で加工用びわの生産者5人を対象に、摘果・袋かけ講習会を開催し、着果状況に応じた摘果と省力的な袋かけ技術を指導した。
- 今作は冬の低温により下垂した花房が多いことから、摘果作業は袋かけが省力的に行えるよう下垂した花房を除去しながら袋かけ作業を実演し、詳しく説明した。
- なお、開花以降の生育は低温の影響で1か月程度遅れており、幼果への晩霜の影響を受けにくいと、計画どおり安定供給できる見込み。
- また、当室では収縮性被覆資材等を用いた袋かけ実証を開始したところで、生産者らにその取組状況を情報提供し、その成果を確認しながら、全労働時間の約3割を占める袋かけ作業の更なる省力化を目指す。



摘果の実演



低温で下垂した花房が多い



収縮性被覆資材の実証

## ■アンケート結果から農業濁水防止は「代かき後も浅水管理が必要」

- 地域農業育成室は、水稻の田植え時期における農業排水の河川流出防止に向けた取組状況を把握し、今後の対策を検討するため、宇和島市三間地区の水稻農家にアンケート調査を実施した。
- この調査は、三間町営農指導協議会と合同で299人にJAの広報誌と合わせアンケート用紙を各戸に配布し、2月22日までに89人から回答があった。
- 調査の結果、代かき時に水や肥料が混ざった泥を少なくする「浅水代かき」は67人が、排水口からの漏水を防ぐ「止水板」設置は61人が取り組み、約7割の生産者が濁水防止に向けた作業を実施していることが確認できた。
- 一方、浅水代かきの場合、代かき後も適度な水量を保つ管理の煩雑さから、浅水代かき後に水を入れ、田植当日に余分な水を排水するといった回答が68人（75%）と多く、濁水が河川に流出する一因であることがわかった。
- そこで当室は3月8日、三間町営農指導協議会と協議し、代かき後の浅水管理の徹底に向けたチラシ作成や、防災行政無線の活用等を通じて生産者の意識を変えるよう、田植えを前に周知することとした。
- また、代かきで濁った水を解消する方法として有効性が確認できている、石こう資材の普及を進めながら「環境に優しい早期米産地」の確立を目指す。



水位調節で排水口から放水



水路に流れ出る濁水

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■大型の農地マップを活用し、集落農業の問題点を協議！

- 鬼北農業指導班は3月20日、松野町富岡集落の担い手組織「援農会にぎりめし」の構成員を対象に同町と連携し、人・農地プランをもとに作成した大型農地マップを活用し、集落内の農地の管理状況などを踏まえた今後の営農方策について協議した。
- 当日は、所有者不明農地の管理方策や農業用水路の老朽化等により営農に支障が生じていることなどの課題を共有するとともに、優良農地の活用に向けた計画づくりや、収益性の高い品目導入等について協議を進めていくことを申し合わせた。
- 当班は、協議の内容をもとに援農会や関係機関と連携し、集落営農の環境整備支援に取り組んでいく。



営農方策協議



大型農地マップを活用

### ■農福連携で大規模くり園の新植を支援！

- 鬼北農業指導班は3月3日、農福連携の取組を推進するため、松野町の就労支援事業所と連携し、新規大規模（1ha以上）くり生産者の定植を支援した。
- 当日は、植穴掘り、施肥、植付け、土入れ、支柱立てなど一連の作業を写真でわかりやすく記した作業手順書を活用し、流れを説明した後、2～3人1組で約180本の苗木を定植した。
- 事業所の利用者からは「初めての作業であったが、楽しく作業することができて良かった」、農業者からも「作業が早くて助かった。他の品目でもぜひお願いしたい」と好評であった。
- 当班では引き続き、人手不足解消に向けた農作業マッチング支援等を行い、農業者の経営発展を目指す。



作業手順・注意点等の説明



くり苗の定植

## ■ (株) あかまつ農園ゲストハウス完成！

- 鬼北農業指導班は、鬼北町と連携しグリーン・ツーリズムの推進を通じて交流人口の拡大などによる地域農業の活性化を図っているが、3月26日、同町の(株)あかまつ農園が古民家を改修し農家民宿「ゲストハウス にしむらサイクル」をオープンした。
- この施設は、同社が経営する観光いちご園や予土線近永駅の近くに位置し、屋外バーベキュー用デッキやサイクリスト向けのメンテナンスコーナーも備えていることから、家族連れやサイクルトレイン利用者にも楽しめる場所として、地域の関係者からも期待が寄せられている。
- 今後、同社は農家民宿を農業経営の1部門として位置づけ、農業体験時の宿泊だけでなく、ワーケーションや移住相談等にも活用し、地域を盛り上げていきたいと意気込んでおり、当班では引き続き関係者と連携しながら、農家民宿の集客や活用方策等をアドバイスし、地域農業の振興を図る。



ゲストハウス にしむらサイクル



いちご狩りを楽しむ子供たち

## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■ SNSを活用した情報発信について学ぶ

- 愛南農業指導班は3月14日、愛南生活研究協議会及び愛・レディースネットの会員8人を対象に、スマートフォンを活用した写真撮影やSNSへの投稿方法を学ぶ情報発信研修会を愛南町平城公民館で開催した。
- これは、会員らが取り組んでいる河内晩柑や地元野菜などを活用した特産品開発や消費者との交流、食育活動等のPR活動に役立てるために実施したもの。
- 当日は、SNSに精通した宇和島市のフォトグラファーを講師として招き、スマートフォンによる写真撮影、アプリケーションによる加工編集、Instagramへの投稿方法等を実習した。
- 会員らは、熱心に撮影に取り組み「『映え』度をアップする写真のコツが分かった」「Instagramへ商品写真の投稿をしてみたい」と意気込んでいた。
- 当班では、今後も同組織と連携し、女性リーダーの育成を目指し活動を支援していく。



情報発信研修会を受ける会員ら



スマートフォンでの撮影に取り組む

## ■県かんきつオリジナル品種について理解を深める

- 愛南農業指導班は3月16日、関係機関と連携して県かんきつオリジナル品種を栽培している農業者14人を対象に栽培管理講習会を開催した。
- 室内研修では、「愛媛果試第48号」の品種特性や種苗法改正に伴う自家増殖の対応方針に加え、深植えにならないための苗木の植え付け方法などについて説明。
- 現地研修では、「甘平」のせん定方法について、日当たりの良い樹づくりを進めるため、密植園の縮間伐や競合する立枝の整理方法について実技指導した。
- 管内では県かんきつオリジナル品種に対する関心が高く、特に「愛媛果試第48号」は、今年の苗木導入本数が1,300本と「河内晩柑」に次いで多く、温暖な当地域の気候に適した品種として期待が高まっており、参加者らは栽培技術のレベルアップに向けて熱心に受講していた。
- 当班は、今後も関係機関と連携して県かんきつオリジナル品種の安定生産のための支援を行う。



説明に聞き入る参加者



「甘平」のせん定実技指導

## 南予地方局産地戦略推進室

### ■鬼北町・松野町でゆずのせん定講習会を開催

- 産地戦略推進室は3月1日、2日の両日、鬼北農業指導班及びJ Aえひめ南と連携し、鬼北町・松野町でゆずのせん定講習会を開催。
- 新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった今回の講習会には、7地区で計約70人の生産者が参加。樹の状況を確認しながら、来年度の着花量の確保を促すとともに、作業がしやすい樹形づくりについて指導した。
- 参加者からは「久しぶりの講習会で、わからない点を聞くことができ良かった」「収穫しやすいように、樹を小ぶりに形に整えていきたい」等の意見があり、当室では引き続き、生産者の高齢化に対応した作業性の良い園地づくりと安定生産に取り組み、鬼北地域におけるゆずの生産振興に繋げる。



せん定方法について指導



生産者からの質問に対し実演を交え回答

### ■若手普及職員がFacebookで南予の農業の魅力を発信！

- 産地戦略推進室は、南予地域の農業や農産物を広くPRするため、愛媛県公式Facebookアカウント「南予の農林水産物PRサポートチーム」を運用し、農産物の生育状況や販売、旬の味覚に関する情報を発信している。
- 今年度は、「南予地域若手普及職員等プロジェクト研修」の一環として、南予全域の若手職員が南予農業の魅力を伝える記事を積極的に作成。
- 各地域の特色ある農産物や取組に関する記事が62件投稿され、総リーチ数（記事を見た人数）は16,613、総いいね数は1,641と、それぞれ昨年比で149%、193%に増加した。
- 当室では、引き続き各普及地区と連携し、SNS等を活用した旬の情報発信に取り組み、南予地域の農業振興に繋げる。



「南予の農林水産物PRサポートチーム」のFacebook

## ■「南予マルシェ」次年度も継続開催へ！

- 南予地方局及び八幡浜支局の産地戦略推進室は、今年度、宇和島及び八幡浜の両商店街で「南予マルシェ」を計11回開催し、道の駅や6次産業化に取り組む農業者など延べ52施設が出店。全体で2,326千円の販売額を確保した。
- 本イベントは、コロナ禍における生産者の販売機会の創出と所得確保を目的に、令和2年9月からゼロ予算でスタートし、3年度は局予算事業「南予の農産物販売促進事業」を活用して定期的で開催。コロナの感染拡大により開催できない月もあったが、南予地域の農産物・加工品の認知度の向上とともに、商店街の集客アップにも繋がった。
- 「南予マルシェ」については、出店者や商店街のほか地元の住民からも継続開催に向けた強い要望があるため、両室では次年度、マルシェを商店街と出店者による自主運営に移行し、地域の魅力あるイベントとして円滑な開催と定着が図れるよう支援することとしている。



南予マルシェで賑わう商店街



お目当ての商品を買い求める固定客

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■スマート農業技術の普及に向けた取組と課題について検討

- 地域農業育成室は3月1日、かんきつ産地でのスマート農業技術の普及に向けて、西宇和スマート農業推進協議会を開催し、市町、JA、ベンダー企業等20人が出席した。
- 協議会では、気象ロボットによる施肥・かん水制御、AI選果機による選果の省力化、簡易アシストスーツによる軽労働化、スマート農業技術の情報発信等への取組実績を報告するとともに、技術の導入・普及に向け、整備費やランニングコスト等を考慮したシェアリング等について検討した。
- 当室は今後、シェアリングによるスマート農業技術の導入コスト低減や簡易アシストスーツの導入啓発、スマート技術の情報発信等を進め、スマート営農体系の確立による未来型かんきつ産地への転換を目指す。



西宇和スマート農業推進協議会

### ■西宇和地域柑橘集落営農組織支援協議会で活動実績を報告

- 地域農業育成室は3月3日、局予算事業「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」に係る標記協議会を開催し、市町・JA・農村整備課等の関係機関職員及び農事組合法人（笑柑園ナカウラ、楽蔵）の代表者15人が参加。
- 協議会では当室から、今年度実施した基盤整備事例研修、リーダー・経営者育成研修、新規就農者の確保に関する活動実績を報告。また、出席した2法人が、法人化した経緯や現在の取組概要について紹介した。
- さらに、伊方町中浦地区でのモデル園（5a）を視察。現在の園地整備状況と合わせて、紅プリンセスへの改植及びマルドリ施設の整備計画について説明するとともに、今後のモデル園の活用について意見を交わした。



モデル園で苗木の植栽間隔とマルドリ施設の配管位置を確認

- 当室では引き続き、本協議会で情報を共有しながら、かんきつ地帯での新たな集落営農組織の掘り起こしや法人化の推進、設立法人に対する経営力強化等を支援する。

## ■「清見」の新しい果皮障害対策（ジベレリン処理）の実用化に向けて一歩前進

- 地域農業育成室は果皮障害軽減を目的に、「清見」に対するジベレリンの使用認可に向けた試験をみかん研究所、JAと連携して実施しており、3月4日にクラッキングやコハン症など果皮障害の発生状況を現地ほ場で確認した。
- 「清見」は、気象条件（温暖・多雨）や収穫作業の遅れによる果皮の過熟等を要因として発生する果皮障害が問題となっており、「愛媛果試第28号」等で果皮障害軽減効果があるジベレリンの使用登録が望まれている。
- 今回の調査では、ジベレリン無散布区で果皮障害は10%程度発生したものの、散布区では全く発生がなく、また散布で問題となる着色の遅れは、外観ではほとんど見られなかったため、実用化への期待が高まる結果となった。
- 当室は今後、調査果数を増やし、効果を明確にすることで、引き続き関係機関と連携し、清見におけるジベレリンの適用拡大を目指す。



果皮障害軽減効果を調査



ジベレリンを散布した果実

## ■新規就農者を対象としたかんきつせん定講習会の開催

- 地域農業育成室は3月8日、就農後5年目までの若い農業者11人を対象に、八幡浜市八代地区の園地で温州みかん・中晩柑類のせん定講習会を開催した。
- 当日は、縮・間伐による作業性の向上にも重点を置いた上で、令和4年産の着果確保対策や、品種ごとのせん定のポイントなどを説明した。
- 参加者からは「コロナ禍で講習会が中止となるケースがあるので現地講習会はありがたい」「わからないことも、細かく質問することが出来た」との声が聞かれた。
- なお、講習会の模様は、「シトラス講座」の動画として収録も行い、講習会に参加できなかったり、繰り返し研修したい人がケーブルテレビや県公式YouTubeを通して学習できるようにしている（過去11回分も視聴可能。「シトラス講座」で検索）。



せん定ポイントを説明

## ■就農啓発 PR 動画「愛顔で就農～八西地域で柑橘栽培～」をお披露目！

- 地域農業育成室と八西地区青年農業者連絡協議会が今年度、県外からの移住就農者等の確保を目的に制作に取り組んだ就農啓発 PR 動画がこの程完成し、3月7日に開催した同協議会主催のプロジェクト発表会で会員及び市町、JA等の関係者にお披露目した。
- 本動画では、宇和海を背景にした石積段畑やかんきつ園での管理作業、新規就農者や青年農業者リーダーからのアドバイスなどの内容を収録。
- 当室では今後、県公式 YouTube で公開するとともに、県内外での就農相談会で活用する他、地元教育機関や道の駅等にも提供し、広くかんきつ栽培や八西地域の魅力を発信することで、新規就農者の確保と移住促進に努めることとしている。



就農啓発動画

## 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

### ■新規就農者の定着と経営安定化に向け支援

- 大洲農業指導班は3月7日～18日にかけて、管内の新規就農者（農業次世代人材投資資金交付対象者）16経営体の現況確認及び中間評価を実施した。これは大洲市及び内子町とJA愛媛たいきとで構成する新規就農サポートチーム活動の一環。
- 就農者の園地管理の状況等を確認しながら、生産販売状況や経営上の課題、今後の計画等について詳細な聞き取りを行ったところ、計画以上の十分な農業所得を得ている農業者もいる反面、管理作業や販売が思い通りとならず、課題を抱えている農業者もおり、それぞれの課題は、技術的なものから、労働力の確保や販路拡大など多岐に渡っていた。
- そのため、当班は就農者の安定した経営実現に向けて、それぞれの課題や要望に応じた支援策を講じることとしており、栽培指導や経営相談などの個別巡回指導を増やすとともに、相談者となる農業メンターを加えたサポート体制をさらに強化していく。



作業性アップの提案を行うチーム



経営内容をヒアリング

## ■イノシシ対策強化に向けて地域の若手リーダーに聞き取り調査を実施！

- 大洲農業指導班は3月16日、JA愛媛たいきと連携し大洲市長浜町出海地区でイノシシの被害や対策状況について聞き取り調査を実施した。
- 調査対象者は、同地区で有害鳥獣捕獲を行う30代のかんきつ農家の男性。周辺農家からの依頼を受けて捕獲用わなを設置するなど集落内の獣害対策におけるリーダー的存在である。
- 現状の課題は、設置したわなを見回るだけで1～2時間要することや、防護柵の設置方法の理解度に差があり、正しく設置できていない園地を中心に枝折りや掘り起こしの被害が発生しているとのこと。
- これらを受け、当班では次年度以降、わなへの発信機設置による見回り作業の省力化や、ドローン撮影による園地と山林の位置関係を考慮した対策ポイントの明確化など、同地区を重点対策地区に位置付け、捕獲の効率化や園地の環境整備に関する指導を強化する予定。



対策の強化について協議

## ■「内子アグリベンチャー21」が農山漁村で活躍する女性組織として全国表彰される

- 3月17日、農山漁村女性の日WEEK2022 関連行事「未来農業DAYs」内の農山漁村女性活躍表彰式で「内子アグリベンチャー21（代表：大程幸子氏）」が農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞を受賞。24日には同組織が内子町庁舎で小野植町長に受賞を報告した。
- 同組織は、内子フレッシュパークからりの農畜産物処理加工施設の整備に伴い、平成13年に発足、大洲農業指導班は発足当初から加工品開発の助言や販路拡大支援を行っている。
- 大程代表は「私達に関わっていただいた多くの方々への感謝を忘れず、今後も会員20人の絆を大切に更なる高みを目指し、やる気・勇気・元気をモットーに頑張っていきたい」と述べた。
- 当班は、引き続き同組織の農産加工開発、製造販売、飲食店「あぐり亭」経営などの複合的なアグリビジネスの展開を支援し、地域活性化に向けた活動と女性の活躍をサポートしていく。



女性活躍で全国表彰された「内子アグリベンチャー21」

## 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■青年農業者が1年間の活動成果を報告

- 西予農業指導班は3月2日、西予青年農業者連絡協議会との共催により西予青年農業者研修会を開催し、会員の他、農業指導士や関係機関職員等40人が参加。
- 研修会では、西予市内の4青年農業者組織の代表から、普及指導員が伴走支援して取り組んだ「大豆の早播き・摘芯による安定栽培実証」や「もっと『南柑20号』の浮皮を防げ！」などのプロジェクト活動の報告を行った。
- 農業指導士等の審査員からは、「地域の課題に向け頑張っている」「近年、内容のレベルが高くなった」等、青年農業者の組織活動に対し、高い評価をいただいた。
- 当班は、今後も関係機関・団体と連携しながら、青年農業者組織の意欲的な活動を支援する。



プロジェクト活動報告

### ■ゆず産地の維持・拡大を図るため、ゆずのせん定講習会を実施！

- 西予農業指導班は3月8日、JAひがしうわと連携し、西予市野村町でゆずせん定講習会を開催。東宇和ゆず生産部会員や関係職員など計58人が参加した。
- 例年はゆずの成木の整枝・せん定をテーマに講習していたが、今年度は内容を大きく変更して、幼木の整枝・誘引と大木の樹形改善について講習した。
- 生産者からは、「残す枝とせん定する枝はどう見分けるのか」、「隣接樹と被さっている枝の処理はどうするのか」など活発に質問を受け、ゆずのせん定技術を再確認するとともに、生産者同士の情報共有の場を設けることができた。
- 当班では、成木のせん定方法だけでなく、幼木の初期管理や大木の低樹高化についても継続した指導を行い、青ゆずを含めた西予市産ゆずの産地振興を図る。



ゆずの幼木の整枝について説明



大木の切り下げせん定を実践

## ■女性農業者がアシストスーツの効果を体感！

- 西予農業指導班は3月11日、西予市の女性認定農業者で組織する「マイネット」の研修会を開催し、会員13人が参加した。
- 研修会では「快適な農作業に向けて」をテーマに、アシストスーツの仕組みやかんきつ栽培における収穫・運搬作業での実証成果などを紹介。また、実用化されているアシストスーツ7種類を展示し、省力化したい作業に合わせたスーツを実際に着用して効果を体感した。
- 参加者からは、「サポーターがついているので膝が楽」「夫や息子にも体験させたい」「草刈りの時に使うのはどれがいいか」など活発に意見交換が行われたほか、各種農作業での試用を希望する参加者もあり好評であった。
- 当班では、スマート農業技術の一つとして、アシストスーツの普及に向けた啓発を行っており、女性農業者の労働負荷の軽減につなげていく。



アシストスーツを試着する参加者

## ■さといもの栽培面積拡大

- 西予農業指導班管内では、さといもの栽培面積が増加しており、令和4年産では約2.5haで栽培されることとなり昨年度の約5倍の面積が見込まれている。
- そこで、西予農業指導班は3月11日、JAひがしうわと連携し栽培講習会を開催し、栽培予定者6人ほか関係者が栽培管理について認識を高めた。
- 管内のさといも栽培は、普及ビジョンである水田地帯の集落営農の推進の一環として、高収益作物の一品目として、伊延西地区に令和2年度に導入、周辺の農業者からは労力が少なく収益性が高いことが注目されていた。
- 当班では、今後、機械化による労力軽減が図れる栽培体系を推進するとともに、大規模栽培経営ができる農業者の育成を支援していく。



さといも栽培講習会

## ■ケールの品質向上対策に向けてリアルタイム栄養診断を実施

- 西予農業指導班は3月17日、(株)グリーンヒル、JAひがしうわと連携し西予市野村町でケール生産者9人のほ場を巡回し、リアルタイム栄養診断結果に基づく各ほ場に適した肥培管理について提案を行った。
- 生産者からは、「栄養診断により数値を明確化していくことで肥培管理の参考になる」「生育状態と数値との関連性を明らかにすることで品質向上を図りたい」など期待の声が上がった。
- 当班では、今後もリアルタイム栄養診断や化学農薬に頼らない病害虫防除について推進し、野村地域の高収益作物として位置付けているケールの生産振興を図る。



リアルタイム栄養診断

## 八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■加工用青ねぎの夏季育苗試験の収量を調査

- 産地戦略推進室は3月3日、夏季の高温下での育苗条件改善に向けた試験（令和3年8月報告）の収量調査を生産者と実施した。
- 本試験は、育苗時のセルトレイの色（黒、白）、規格（288穴、200穴）の違いが収量に与える影響を検討したもの。
- 結果、慣行の288穴セルトレイと比較して、200穴セルトレイでは収量が約25%増加した。なお、セルトレイの色による収量差は明らかでなかった。
- 今後は、2作目の収量でも増収傾向が継続するか調査するとともに、200穴セルトレイへの変更に伴うコストを考慮しながら、規格の切り替えを検討する。
- 当室では、夏季及び冬季における安定育苗技術の確立を図っており、今回の調査は生産者に収量の差を実感してもらう機会となった。



生産者と検証結果を確認

## ■令和4年産川田温州の生産をスタート

- 産地戦略推進室は3月24日、八幡浜市内の実証ほ場において、半樹交互結実技術の研修会を開催し、生産者10人が参加した。
- 研修会では、連年安定生産に向けた半樹交互結実技術の確認と意識統一を目的とし、昨年着果させた側の立枝、競合枝、内向枝の処理など、次年度に繋げるせん定のポイント等に重点を置いて説明した。
- また、販路拡大のため、昨年に対面で首都圏のバイヤーと意見交換を行い、オーナー制度、JALとのマッチングなどの提案があった内容についても併せて報告した。
- 当室では、今後も技術研修会を定期的を開催するとともに、新たな生産者の掘起しや消費者への認知度向上に向けた取組を実施していく。



今年の管理のポイントを説明

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■コロナ禍での売れる商品プロジェクトで販売UP商品が開発される

- 高度普及推進グループは3月22日に、普及組織先導型戦略的産地育成事業を活用した「コロナ禍での売れる商品プロジェクト」の実績報告会をリモートにて開催した。
- 同報告会では、各普及拠点で取り組んだ10プロジェクトについて担当者が実績を発表。新規又はブラッシュアップされた全ての商品が生産者の販売と生産意欲の向上に繋がっていることが報告された。
- また、プロジェクトの中には直販所等での販路が拡大し平年の数倍を売り上げたものや、商談会を通じ専門店等で定番商品化されたものもあり、生産者のみならず担当した普及指導員の意欲や資質向上にも繋がっていることが報告された。
- 同事業では、今後も開発した商品の販路拡大を継続するとともに、今回のプロジェクトで習得したノウハウを他の生産者にも普及させていくこととしており、商品開発、販路開拓における普及指導員の活動を積極的にバックアップすることにより生産者の売上拡大、普及指導員の資質向上に貢献していく。



各普及拠点からの報告



プロジェクトで開発された商品

左から、ギフトジャム(八幡浜)、レモンラムネ(しまなみ)、いちごスムージー(西予)

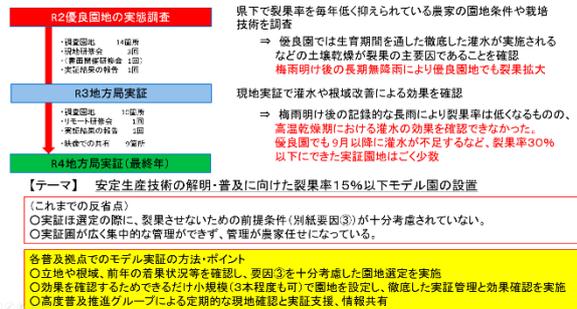
## ■「甘平」の裂果要因の解明と対策技術の確立に向けて研究会を開催

- 高度普及推進グループは3月3日、県庁と県下の各普及拠点等をオンラインで繋ぐリモート形式で、第2回普及指導員果樹調査研究会を開催した。若手普及指導員等42人が参加し、「甘平」の裂果要因の解明と対策について意見交換を行った。
- 当日は、各普及拠点から県下8か所に設置した裂果軽減に向けた現地実証結果の報告があるとともに、当グループからは本年度は梅雨明け後の記録的な長雨により土壌が湿潤に保たれたことから、県下の裂果率は前年に比べ20～23%程度低下していることが試算されることを報告した。
- また、当グループはかん水による裂果抑制の効果を得るためには、裂果し難い形質の果実を生育させるために適正着果等の一般管理により樹体や果実の適切な生育を促すことが必要不可欠であり、根域の深さや土壌の保水力に応じたかん水方法や保水対策等が重要であると総括した。
- 次年度の果樹調査研究会ではこれまでの調査活動で得られた知見を基に、『「甘平」裂果率15%モデル実証プロジェクト』に取り組むこととし、徹底したかん水等の裂果対策技術の導入により裂果率を極端に抑えたモデルを実証し、「甘平」の裂果対策技術の確立を目指す。



裂果要因とその対策について総括

### R4裂果率15%モデル実証プロジェクトの概要



「甘平」裂果率15%モデル実証プロジェクトの概要

## ■作物調査研究会で「ひめの凜金賞プロジェクト」の結果を報告

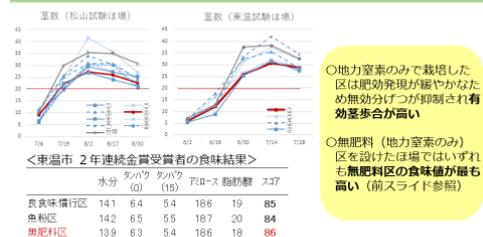
- 高度普及推進グループは、3月1日に令和3年度第2回作物調査研究会を開催し、県下の普及指導員や研究者ら32人が参加した。
- 当日、当グループから令和3年産「ひめの凜」の県下全体の栽培実績の分析結果と、「ひめの凜金賞プロジェクト」の取組結果を報告。追肥等による幼穂形成期以降の肥効や、登熟期の根の状態が食味値に影響していることを報告し、地力窒素（土づくり）に重点を置いた良食味米栽培方法を提案した。
- また、同会では各普及拠点から同様に取り組んだ金賞プロジェクトの結果について報告があるとともに、今治支局地域農業育成室が取り組んだ葉色に着目した栽培指標づくりや、農林水産研究所の「ひめの凜」に係る調査、研究の報告についても報告があり、活発な意見交換がなされた。
- 当グループでは、今年度得られた知見や新たな課題をもとに、来年度も「ひめの凜金賞プロジェクト」を各普及拠点と連携して行う予定で、継続して良食味栽培方法の確立に向けた取組を進めることとしている。

※金賞プロジェクト：全国規模の食味コンクールでの入賞を目指し、普及指導員が生産者・ほ場を選定し良食味米栽培実証を行うもの



食味向上技術に関する意見交換

### 考察② 地力窒素を中心とした栽培体系で食味向上



結果：無肥料区で無効分げつが抑制、高スコア  
地力窒素を主体とした栽培体系が望ましい

食味向上技術実証報告資料（一部抜粋）

## ■いちご高設栽培における高度な養液管理技術の分析結果を報告

- 高度普及推進グループは3月16日、いちご高設栽培園地で採取した土壤養液を比較検討した調査結果等を報告する第3回普及指導員野菜調査研究会をリモート開催し、各拠点の普及指導員や農林水産研究所職員、JA営農指導員等34人が参加した。
- 当日は、当グループからは採種した土壤養液の分析結果として、培土内の肥料濃度の目安である電気伝導度（以下、EC）は、気象条件や栽培管理等によって時間単位で複雑な勾配を示すとともに、多くのほ場で厳寒期には給した養液より高い傾向にあることを報告した。
- さらに、同養液の詳細な成分分析や株の掘り取り調査報告を農林水産研究所職員等と考察した結果、経年劣化した培土内では過湿等により根の伸長が抑制され、吸収されなかった種々の肥料成分が蓄積している可能性があること、一方、高収量ほ場では必要最小限の濃度での養液管理が徹底されていることを報告した。
- 当グループは、今後、いちごの養液管理技術の確立・普及を通じ、高設栽培における高収量技術の確立を目指すとともに、調査研究会における情報共有を通じて、普及指導員の資質向上を図る。



調査結果の報告

### 調査結果④ 厳寒期の根の褐変・新根の発生

【生理障害発生】（愛媛農試方式）

#### <培土の状態>

・上層：長年の栽培によって細かくなった培土が密着状に塊化し、揺るとしたたり落ちるほどの土壌水分を保持

#### <根の状態>

・上層：クラウンから生じた太く白い一次根から分岐するようにして発生した新根や発生する直前と見られる二次根表出上の部も多数確認

・下層：細根が少なく、調査した一次根や二次根が多くを占め、部分的に発生した新根についても褐変

培土の経年劣化が原因で過湿となり、地上部の旺盛な生育にあった地下部が形成できなかった？



調査報告資料

## ■さといもの優良種芋安定生産技術の確立に向け栽培実証を開始

- 高度普及推進グループは3月17日、優良種芋の安定生産技術の確立に向け、生産者と協力して、今治市でさといも「愛媛農試V2号」を用いた、貯蔵条件の比較実証を開始した。
- 本実証は、種芋の掘り取り時期や貯蔵方法の違いが収量、品質等に及ぼす影響を調査し、優良種芋の安定供給を可能とする貯蔵方法を検討するもの。
- 当日は11月に掘り取って風乾後、約5か月間常温の倉庫に分割貯蔵されていた種芋のほか、2月中旬に掘り上げた後に分割、約14℃、湿度60～80%の貯蔵庫で保存していた種芋等を定植。今後、萌芽時期や生育状況に加え、収量や品質を評価する。
- 当グループではさらに、裂開症や目つぶれ等の品質低下抑制に効果的とされる高畝湛水栽培等のかん水管理を軸とした栽培実証ほの設置を検討しており、今後、関係機関と連携の上、優良種芋の安定供給体制の確立を目指す。



実証農家と各試験区の種芋を定植



11月に掘り取り専用庫で貯蔵された種芋

## ■革新的技術を実証するモデルほ場が完成、高度な栽培技術の確立を目指す

- 高度普及推進グループが支援している普及組織先導型革新的技術導入事業を活用した3モデル実証ほ場（今治市2か所、大洲市1か所）が完成し、新技術の実証が順次開始される。
- 今治市の甘長とうがらし栽培実証では、傾斜地を利用した通風性の高い変形ハウスにおいて隔離ベッドを利用した養液栽培による適正なかん水及び肥培管理を行うことで収量拡大と秀品率の向上を目指す。同じく今治市において、LED照明を利用した閉鎖型育苗システムが導入され、「紅い雫」や「さくらひめ」の良質苗生産を通じた長期・多収栽培体系を実証する。
- 大洲市ではショウガの多収栽培体系の確立を目指し、高張力鋼管を使用した耐候性低コストハウスを導入。気象による影響を回避しながら温度や水分等をコントロールすることで収量性を重視したハウス栽培技術を実証する。
- 当グループは、今後これらのモデルほ場の栽培技術を重点指導し、革新的な技術を確立することで産地全体の生産性を向上させる。



傾斜地を利用した甘長とうがらし栽培ハウス  
（今治市）



LED 利用閉鎖型育苗施設（今治市）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543